

番	郡市	市立	校名	公開の仕方	公開開始時期(月)	公開担当者	テスト後の配信データ(データ校との比較折れ線グラフ(結果), 結果分析, 学習指導改善の手引き, 指導案)をどのように活用するか。(アイデア)	今年度の児童の実態分析と目指す子ども	取組の概要(どのようなことに, どのように取り組むか)
1	上越	上越市立	春日新田小	県小教研HPに公開	平成29年1月	阿部琢郎	昨年度のテスト後にまとめられた結果と本校の結果を比較し、課題を明確にする。一方では、直江津東中学校における学力実態と課題を情報共有する。これらを基に、本校において重点的に研究をする教科を決定し、学習指導方法や学級指導方法の改善を図る。	昨年度実施した学習指導改善調査の結果、全国学力学習状況調査の結果、NRTから、どの学年もおおむね一定の学力の定着が見られた。一方では、今年度、1、2、3、5学年において新たに学級編成を行ったことから、学級経営の在り方が学力向上にも影響すると考えられる。そこで、直江津東中学校における学力実態も考慮して、本研究では、算数における思考力や主体的に学ぶ態度の育成を重視し、認め合い、進んで学び合う子どもの育成を目指すことにした。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上から見た直江津東中学校の課題解決も踏まえ、数量関係の指導の充実を図るカリキュラムを編成する。 ・学力向上には学級経営が大きく影響することから、学級づくりを基盤にした協同的な学習について、実践的な研究を進めていく。 ・子どもたちをかかわらせることが目的になっていたり、協同的な学習が機能しない学級があったりすることから、個別に課題を明確化し、実態に即した指導方法の工夫と改善を図っていく。
2	上越	上越市立	清里小	自校のHPに公開	3月	植木幸広	<p>自校での採点結果と配信データを比較しながら、正答率が落ち込んでいる問題について、重点的に指導していく。</p> <p>NRT学力検査の全校偏差値の推移をみると、平成23年度から平成26年度にかけて、右肩上がり傾向を示している。これは、Web配信問題への着実な取組や休み時間等を利用した個別指導もさることながら、校内研修を通じて授業改善に取り組んでいる成果が大いに表れているものと判断する。</p> <p>これまでの研究の成果として、「自分の考えをもつこと」ができる児童が増えてきている。しかしながら、自分の考えを伝える時、言いつばなしになったり、発表のしつぱなしになったりする様子が見られる。今年度は、友達の考えとかかわらせながら、自分の考えを深めていく児童の育成を目指したい。</p>	<p>NRT学力検査の全校偏差値の推移をみると、平成23年度から平成26年度にかけて、右肩上がり傾向を示している。これは、Web配信問題への着実な取組や休み時間等を利用した個別指導もさることながら、校内研修を通じて授業改善に取り組んでいる成果が大いに表れているものと判断する。</p> <p>これまでの研究の成果として、「自分の考えをもつこと」ができる児童が増えてきている。しかしながら、自分の考えを伝える時、言いつばなしになったり、発表のしつぱなしになったりする様子が見られる。今年度は、友達の考えとかかわらせながら、自分の考えを深めていく児童の育成を目指したい。</p>	<p><校内研修のテーマ> 自分の考えをもち、かかわりの中で深める子</p> <p>(1) 「かかわりの中で深める」子の育成 「自分の考えをもつこと」の方策は、これまでの研究の中で成果として明らかになってきている。「かかわりの中で深める」ためには、まず、指導者が授業の中で「かかわる」場面をどのような「目的」で設定し、その目的を達成するためにどのような「方策」を講ずるかを明確にするところから始めるべきであろう。研究授業を行う際には、指導案に「かかわる」場面の「目的」を明示し、その目的を達成するために用いられた「方策」が有効であったかを協議会で話し合っていきたいと考える。 研究の窓口としての教科は、昨年度は算数に国語の2教科であったが、今年度は教科の縛りを設けない。授業者の専門としている教科や児童の実態を考慮しながら、取り組んでみたい教科で実践することで研究成果が上がると思われる。</p> <p>(2) NRT, Web配信問題などの客観的な資料による学習内容の定着状況の把握と学力課題の明確化 今年度も昨年度までと同様、Web配信問題を積極的に利用し、児童の学習内容を客観的に把握するとともに学力課題を明確にする。</p> <p>(3) 保護者と連携した家庭習慣の定着と学習環境の整備 基礎的・基本的な学力の定着には反復練習が必要である。今年度も、家庭と連携して、家庭学習の習慣化と学習環境の整備に取り組んでいく。</p>
2	柏崎・刈羽	柏崎市立	半田小	県小教研HPに公開	3月	神林史正	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の指導案、学習指導改善調査問題を基に事前指導を行う。 ・検査終了後、成果と課題を速報として提示、結果をもとに授業改善の方向を共有する。 ・県平均と比較し、成果と課題を確認し、授業改善の取組を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の児童が「授業の内容が分かる」と答えている一方で、「筋道で解く」「解き方を説明する」等の内容で落ち込みが見られる。 ・思考力・判断力・表現力を身に着け、主体的・協働的に課題解決を図っていく児童の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学力検査やweb配信システム診断問題の結果から成果と課題を把握し、弱点克服のための指導を継続する。 ・言語活動を充実させると共に、児童が主体的・協働的に課題解決を図る学習活動を組織する。 ・年度末の学力検査を基に取組の検証を行う。

3	糸魚川	糸魚川市立	下早川小	県小教研HPに公開		<p>結果の分析を踏まえて、重点指導単元や内容を決め指導を行う。 学習指導改善の手引きを踏まえた授業作りのための研修を行う。</p>	<p>どの教科においても、基礎的な問題は比較的できているが、考え方を記述する問題については無答率は少ないものの正答率が低下している。県小教研が授業改善のポイントをふまえて、課題を次のように考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の意図を読み取ること ・情報の整理、取捨選択 ・説得力のある文章を書くこと（構成、理由付け） ・適切な用語を的確に使用して説明すること ・字数や時間の制限の中で文章を書くこと <p>そこで本年度も、昨年度から継続して国語科の「理解（読むこと・聞くこと）」と「表現（書くこと・話すこと）」の関連させた学習活動を進めるなかで、「論理的思考」に着目して研究を進めていくこととする。</p>	<p>(1) 「読むこと（理解）」と「書くこと（表現）」を関連させた学習の設定 (2) 「論理的思考力」を育む授業の工夫と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学期に重点単元を1単元以上設定 ●公開授業を年2回設定（研究授業1回、参観授業1回） ・研究授業を全学級年1回行う。 ・指導案検討は授業者と研究推進部で行う。 ・研究授業後は、協議会を開き成果や課題を明らかにする。 <ul style="list-style-type: none"> ●外部講師の招聘 ●発達段階に応じた論理的思考力、単元を貫く言語活動を明示した学習内容一覧表の作成 ●毎週木曜日の朝学習に「αドリルタイム」（読み取る力の育成） <ul style="list-style-type: none"> ●日常の取組（読書、音読、スピーチ、日記等）
3	糸魚川	糸魚川市立	大和川小	県小教研HPに公開	2月	<p>結果分析と自校の実態を比較検討する。その際、調査を行った学年だけではなく、1～3年生ではどのような指導が必要なのか、系統性を考えて課題と改善の方策を検討し、授業改善に生かしていく。</p> <p>また、「学習指導改善の手引き」からポイントを抜き出し、全職員で読み合わせたり、学級の子どもの実態に応じた具体的な活用法を考えたりする研修を行う。</p>	<p>〈児童の実態〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉による説明と式との関係付けができなかった。 ・考えを説明する問題で、説明の言葉が足りず、文章に表現しきれていない。 ・順序だてた説明ができていない。 ・問われていることに正対した答えとならない。 <p>〈課題〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①思考、判断して、読み取ること ②数量や図形に対する概念 ③考えを筋道立てて説明すること <p>〈目指す子ども像〉</p> <p>問われていることは何か読み取る（聞き取る）力、解決への見通しを筋道立てて考える力を育てる必要がある。</p> <p>そこで、目指す子ども像を「主体的に学び、思考力・判断力を高め、仲間とともに伸びる子ども」と設定し、思考力・判断力を高める場を工夫した授業改善を行い、学力向上に取り組む。</p>	<p>学習ルールを身に付け、内容を正確にとらえて思考し、適切に判断する力を付けさせるために、以下に示した授業構成と手立てを工夫して授業改善を図っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①授業構成の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ア：一人ひとりの自己解決（課題の把握と解決のための思考）の場を設定する。 イ：（自分の考えを広げ、確かなものにするための）かかわり合い、ともに高まりあう場を設定する。 ウ：教材教具の工夫。 等 ②手立ての工夫 <ul style="list-style-type: none"> ア：課題を把握させ、意欲を高め、思考力判断力を高める発問。 イ：考えをより広げ、深めさせる課題（発問）。 ウ：ねらいとまとめを共有する板書。 エ：何をするか（しているか）一目でわかる板書。 等 ③学習規律の徹底 <ul style="list-style-type: none"> 聴き方、話し方等中学校区の共通取組を意識する。説明する、話し合う等の活動の中で身に付けさせられるよう工夫し、徹底を図る。
4	妙高	妙高市立	斐太北小	県小教研HPに公開	8月7日	<p>・平成23年度から平成25年度の調査結果から、県平均より下回っている問題を抽出し、傾向を分析した。 ・平成26年度の調査結果から正答率の低い問題を抽出し、その要因を考察した。また、授業改善の視点を職員で共有し、授業研究を通して授業改善を図った。</p>	<p>【児童の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動や探求的な活動での経験や知識と関連付けて考え、話したり書いたりすることができる。 △「体験や予想を加えて書く」などの条件が設定されると、体験や予想は入れられても、整合性に欠ける。 △資料を的確に読みとる力が不十分である。複数の資料から必要な資料を選択し、効果的に活用することに弱さがある。 <p>【目指す子ども】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究的な活動を通して、多面的に考え、体験や資料を使つて的確に表現したり、話し合ったりしながら問題を解決する子 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科と生活科・総合的な学習の関連を図った子ども発の単元づくり（授業研究） ・体験活動や探究的な活動の充実 ・子どもにとって必要感のある言語活動 ・資料や学習材をもとにして話し合い、自分の表現や考えを吟味する場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ○探究の過程における日常的な子どもの見とりと意味づけ ・記録の集積と学年便りでの発信 ・活動の軌跡が見える教室掲示の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ○研修の充実 ・学期ごとに国語科と生活科・総合的な学習の関連を図った実践をまとめ、子どもの姿をもとに語りあう <ul style="list-style-type: none"> ○発表朝会の実施 ・上学年と下学年に分かれ、資料を提示しながら体験活動や探求的な活動での学びを発表し、質疑応答する

5	長岡・三島	長岡市立	関原小	自校のHPに公開	9月	河野有里	<ul style="list-style-type: none"> ・配信された手引き、指導案を各学年に配布し、解説をしながら復習をする。 ・実際にその学習内容を学習する前学年にも手引きなどを配布し、これからの授業に生かす。 	<p><児童の実態分析></p> <p>全国学力状況調査の結果を全国や県の平均と比べると、難しいと感じた問題に直面した時、すぐに諦めてしまう傾向がみられる。(特にB問題での無答率が高い) 普段の授業では、学習への興味関心がもてなくて授業に集中できなかったり問題解決を最後まで粘り強く取り組まなかったりする実態がある。さらに学力不振→学習意欲の低下→授業に集中できない→学力低下という負の連鎖におちいってしまっている児童も少なくない。 <目指す子供>主体的に取り組む、意欲的に学び続ける子</p>	<p>児童が意欲をもって主体的に学ぶ姿を、児童同士のかかわり合いを多くもたせる授業を考えていく中から探っていく。児童が、自分の思い、考え、知識をお互いに交流することにより、学習活動の充実、学習意欲の向上につながっていくことを期待している。</p> <p>(1) 授業力向上に向けての取り組み「見通し」「かかわり合い」をキーワードに年2回の公開授業を中心に授業力向上を目指す。</p> <p>(2) 学力向上システムの改善</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学習規律の徹底 ② 児童同士の関わり(学級集団作り) ③ モジュールの効果的な活用 ④ T・T指導の充実 ⑤ 全校テストの実施 ⑥ Web配信問題の実施 ⑦ NRT・学習指導改善調査の分析
5	長岡・三島	長岡市立	栃尾東小	県小教研HPに公開	10月	五十嵐実	<ul style="list-style-type: none"> ・データ校との比較を通して、当校の実態を正確に把握し、現時点での授業の在り方に課題を明確にする。 ・他校の指導案を参考に、教材の提示の仕方や学習課題の設定を吟味する。 	<p>児童の実態</p> <p>「何となくそう思う」「こちらの方がいい」と、自分の考えをもつことができるが、それを裏付ける根拠を明確にすることを苦手としている。</p> <p>目指す子ども</p> <p>「事実やデータをもとに自分の考えをもつ」といった論理的思考を働かせる子ども</p>	<p>研究主題を「問いをもち、その解決方法を探る」とし、子どもに問題意識をもたせるとともに、解決の見通しや解決に至る経緯を明らかにできるような授業改善を図る。そのために、子どもが問題意識をもてるような教材を提示したり、かかわりを通して解決の方法を探ったりする手立てを検証する。</p> <p>・研究教科領域を国語科の説明文的単元に定め、実践研究を行う。</p> <p>・長岡市教育センターと上越教育大学と連携し、指導を受けたり、データを提供したりしてしながら、研究を進める。</p>
6	三条	三条市立	裏館小	県小教研HPに公開	1月	武石和仁	<ol style="list-style-type: none"> ① 夏季休業中に採点・結果分析を、ペア学年を作って全職員で行う。 ② ①結果分析を校内職員研修で活用し、全職員で実態把握を行い、「読み取る力」については、2学期以降の各学年の授業実践の中で、全職員各自での取組を考え、実践していく。 ③ ①②を受けて、分析や各種データを、各自の「授業改善宣言」の中に取り入れ、日々の授業改善にいかしていく。 	<p>基礎的な学力は身に付けているが、読み取る力が不十分な子と、言語による表現を苦手としている子が多い。そのため、「自分の考えを表現し、意欲的に学習を進める子ども」をめざす姿として位置付け、子どもたちが、意欲や目的をもって学習に取り組める授業の創造を目指していく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 夏季休業中に、実態把握・結果分析をいかして、全職員が2学期以降の「授業改善宣言」を行う。 ② 子どもたちが主体的に「言語表現」をしなくなる学習活動や「読み取る力」を高める指導を実践する。 ③ ①と②を受けて、研推が中心となり、実践から得られた子どもの主体的な「言語表現」を生む支援のあり方や指導法を、共通の知見としてまとめ、職員に還元していく。
7	小千谷	小千谷市立	千田小	県小教研HPに公開	2016年3月	小船井明美	<p>多く見られた誤答を分析し、身に付けたい力を明確にする。</p> <p>指導案検討の折に「授業改善のヒント」を活用し指導に生かす。</p>	<p>アンケートでは、「授業が分かる」子どもが90%を超える一方、「授業が楽しい」とした子どもが90%を下回った。また、学力検査では、関心・意欲・態度の得点率が全国平均を下回っていた。学ぶ楽しさとは何かを再考し、子どもが意欲的に考え学習できる授業づくりを目指す。</p> <p>目指す子ども像を「思いや考えを伝え合い高め合う子ども」とした。学習面においては、基礎基本を確実に定着させること、興味関心を引き出し、思考力・判断力を育てる授業改善を行うことを重点とする。</p>	<p><日々の授業改善></p> <p>「授業改善のポイント」を参考に作成した授業チェックリストで自身の授業を自己評価するとともに、目指す授業像の明確化と質的向上に取り組む。</p> <p><公開授業>学級担任が1回ずつ授業公開、授業分析を行う。「学ぶ楽しさを感じ、考え表現する子ども」を育成するための手立てを提案し、指導案に明記する。</p> <p><月例テスト、Web配信集計システム活用> 定着状況の継続的な把握、授業法の見直しを図る。</p>

8	加茂	加茂市立	加茂小	県小教研HPに公開	3月	相田巧	結果をもとに、自校の課題を明らかにし授業改善に生かす。 ①「加茂小データベース」の活用 授業改善に向けて取り組んだ実践を、データベース化することで情報の共有を図り、次年度以降の実践に生かす。 ②「音読点検表」の活用 前年度までの知見が示されている音読点検表をもとに、国語の授業や朝学習で取り組んだ音読の成果を入力し、情報の共有を図る。	自分の見方・考え方を表現（文や図）で表現することに弱さが見られる。自分なりの納得をつくりだし、思いや考えを伝え合って学びを深める子どもを目指す。	学習課題並びに言語活動によって子どもの覚える「自尊感情」と「自己有用感」を大切に授業のありかたを追究する。 ○子どもと教材とのかかわりを言語活動で充実させる教師の働き掛けについて検証する。 ○子どもと集団とのかかわりを言語活動で充実させる教師の働き掛けについて検証する。
9	十日町・中魚	十日町市立	西小	県小教研HPに公開	11月下旬	（恩田千明 研究主任）	○9月に「校内研修のてびき」を参考にしながら、校内研修を行う。 ・当校の児童の結果と配信データとの比較。 ・当校の児童の課題と授業改善について。	児童の実態 ・思考力、表現力が課題。 目指す子ども ・自分の考えをもち、進んで伝える子 【低学年】 ・自分の考えを、図や言葉で表す子 ・友達の考えを最後まで聞き、はっきり話す子 【中学年】 ・自分の考えを、根拠を明らかにして表す子 ・友達の考えに関連付けながら、聞いたり話したりする子 【高学年】 ・自分の考えを、学習した用語を適切に使い、要点をまとめて表す子 ・話し手の意向をとらえて聞き、相手に意向が伝わるように話す子	【校内研修としての取組】 研究主題「自分の考えをもち、進んで伝える子」の育成 ○授業公開 ・年1回、全校または学年部で授業公開。 ・5月の全校公開は外部講師による指導あり。 (研究主任が授業者) ・6月の全体公開は主事訪問。 ・11月の全体公開は、「学習指導改善調査」でねらう力を育てることを意識した授業実践（3年：国語） ○レポート研修（年2回夏休み・冬休み） ・研究主題を意識した授業実践をレポートにまとめ、研修を行う。
9	十日町・中魚	十日町市立	松代小	自校のHPに公開	10月より	（佐藤川広美 ホームページ担当） （吉川弘美 研究主任）	職員研修でデータを比較しながら分析する。データ校の取組のホームページを参考に授業実践に生かす。	児童の実態：今年度のテストの結果入力や分析は、夏休み8月の研修日の予定なので、現在のところ、実態分析がまだ明示できません。すみません。目指す子どもとしては、理由をしっかりと書くことができる子・原稿用紙に指定文字で時間内に作文が書ける子・段落分けをきちんと出来る子です。	学習指導改善調査でねらう力を育てるための授業実践に2学期より取り組み、冬休みにまとめや報告を研修でレポートにまとめる。
10	見附	見附市立	上北谷小	県小教研HPに公開	12	大坪裕子	○データ校との比較折れ線グラフ…データ校と比較し、定着が不十分な学習内容と上回った学習内容を確認する。 ○結果分析…結果の要因を探る。また、授業改善の方策を考えて共通理解を図り、実践にあたる。 ○学習指導改善の手引き…実際の指導に活用し、その効果について全体で研修する。 ○指導案…指導案の中に分析結果を活かした単元計画を立て、授業改善の方策を具現した授業を公開する。	<児童の実態> 授業に正対し、学習に前向きに取り組むことから、基礎的・基本的な知識・技能の力を付けている。しかし、自主的な学習意欲や資料を読み解く力、既習学習を活かして論理的に考えたり書き表したりする力に課題をもつ。 <目指す子ども> 「主体的に学習に取り組む、考え・表現する子の育成」をテーマに、知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組む、課題の正確な把握や資料の読み取りをもとに、筋道を立てて分かりやすく書いたり話したりすることのできる子どもを目指す。	①全職員による年1回の公開授業研究を行い、研修に取り組む。 ②学習指導改善調査実施後、全職員で採点と結果分析を行う。 ③結果分析を受けた授業改善の方策をもとに、全職員が授業改善に取り組む。 ④当該学年は、落ち込みの見られた学習内容について再指導を行う。 ⑤学習指導改善調査校の成果を11月公開する。（第4学年）

11	燕・西蒲	燕市立	分水北小	自校のHPに公開	9月	佐藤裕介	<ul style="list-style-type: none"> データ校との比較によって、重点的に指導すべき項目を明らかにする。 学習指導改善の手引きを印刷配布し、校内研修の課題設定や活用問題設定の参考にする。 指導案を印刷配布し、学習指導に生かすようにする。 	<p>初めて見るタイプの問題や複雑に感じる問題に対して、躊躇したりあきらめたりしてしまう傾向が見られる。基礎基本の定着と合わせて、活用力を伸ばす視点での取組が必要である。これまでに学んだ知識を想起・活用して、新たな課題を解決しようとする子どもを目指す。</p>	<p>◎「学びあい、活用する力を伸ばす児童の育成」を研修主題として校内研修を行う。</p> <p>【研修仮説】 1単位時間の算数の授業において追究意欲をもたせる課題設定を工夫し、ペア・グループ活動を通して課題解決に取り組みせれば、児童は学び合って考えを深め、これまでに学んだ知識を活用して新たな課題を解決しようとするであろう。</p>
12	魚沼	魚沼市立	小出小	県小教研HPに公開	1月以降	米山智	<ul style="list-style-type: none"> 当校との結果を比較し、落ち込みが見られる部分を2学期以降重点的に指導する。(各単元で重点的に指導する。月例テストに類似の問題を出す。家庭学習で類似の問題を出す等) 指導案を関係学年に配付し、自学年や自学級の実態に合わせ、可能な部分や必要な部分に取り組む。 	<p>校内研修テーマを「確かな考えをつくる～伝え合い、学び合う授業を目指して～」とし、児童が伝え合い、学び合う活動の充実を図る授業研究を通して、児童の思考の深まりを目指す授業改善を推進する。</p> <p>「伝え合い」「学び合い」を授業づくりのキーワードとして、一人一授業公開を原則とした授業研究中心の研修が進められた。子どもたちの曖昧な考えによる発言をていねいに拾い、全体に位置付ける教師の適切な働きかけにより、「『ずれ(認識の違い)』を伝えたい」「調べて分かったことを伝えたい」という子どもの思いを引き出し、課題に主体的に取り組む姿を実現させた。</p> <p>今年度も子どもたち同士のかかわりを大切に、必要感のある学び合いを中核とした授業を目指していく。子どもたち同士の学び合いを充実させることで、子どもたちのより主体的な学びと確かな考えの育成を図る。</p>	<p>研究主題にこめた、学び合いを生み出し、目指す子どもを育てていくため、授業像を次のように考える。</p> <p>○自分の思いや考えを述べる目的や価値を理解し、互いに聞き合い、考え合いながら共に分かり合い問題解決していく授業</p> <p>① 子どもの思いや考えを膨らませる時間と場の設定</p> <p>② 思いや考えを出し合い、クラスで考えを練り上げたり、問題を解決したりする学びの体験の工夫</p> <p>③ 「何のために」「どのように」話し合うか、目的意識をもたせた話し合いの場の設定と工夫</p> <p>④ 話し合うことで、問題を解決できたり、主体的に学習を進めたりできるという満足感を味わわせていくこと</p> <p>単元レベルでは、①～④のポイントについてそのつながりをつけ、ねらいを明確にした意図的な活動の組織が必要となる。また、1単位時間のレベルでは、③、④の視点からの支援の有効性について、評価や検討を加えていかなければならない。</p> <p>そこで、今年度の研究内容として、『伝えたいという思いをもたせる指導の工夫』を特に課題として、取組を進めていくこととする。</p>
13	南魚沼		北沢小				公開校の計画を参照		
14	新潟						公開校の計画を参照		
15	新発田・北蒲						公開校の計画を参照		
16	村上・岩船								
17	五泉	五泉市立	愛宕小	県小教研HPに公開	H28.3	宇尾野貴子	<p>配信データ、結果分析により、当校児童の定着が不十分な部分を明確化し、その部分を中心に個別指導や補充学習などを行う。また結果に関しては回覧し該当学年だけでなく、全職員で当校児童の実態を把握する。</p> <p>また学習指導改善の手引き、指導案等を随時活用できるように職員に紹介、周知する。</p>	<p>児童は与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。しかし実際の授業では、考えがなかなかまとまらない、いい考えをもっていてもどう話していいかわからず、思いや考えを積極的に表すことをためらう姿が見られる。そのため、ワークシートで自分の考えを明確にもたせたり、伝え合いの場を工夫したりしてきた。それらの手立てにより、グループの中や全体に向けて自信をもって発表したり説明したりする姿をみることができた。</p> <p>昨年度末のNRT学力テストの結果では、全学年が全ての領域について全国比(=100)を上回り、今までの研究の成果が現れている。一方、「読むこと」領域において、学年の差が大きい傾向が見られた。特に、言葉に着目しながら文章を正確に読み取ることに弱さが見られる。また、他の領域の結果から、問題の意図を正確に読みとって答えることを苦手とする姿も見られる。</p> <p>以上の実態から、今年度は「言葉に着目し、叙述に即して正しく文章を読み取る力」の育成を目指す。</p>	<p>叙述に即して正しく文章を読み取る力をつけるための手立てのあり方を探る。</p> <p>○学習活動を工夫し、目的に応じて文章を読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元構成の工夫 学習課題や発問の工夫 <p>○言葉や文章を根拠に考えさせ、正しく読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠となる言葉や文章に着目させる工夫(キーワード、指示語、接続語など) 読み取るポイントを明確にするワークシートの活用 <p>○語句の意味理解を確かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読のさせ方の工夫 絵や具体物の活用 動作化による理解 辞書、図鑑等の活用 読書の奨励
18	阿賀野	阿賀野市立	安野小	自校のHPに公開	11月	佐藤仁志	<p>①データ校平均値と比較し、落ち込んでいる問題、領域について、分析し指導改善に関わる校内研修を行う。</p> <p>②改善の手引きを参考にし、「学び合い」を重点に置いた授業改善を行う。</p>	<p>NRT全校偏差値(国)50.3(算)50.0 ※5全国平均並みであるが、5段階の子が少なく、1,2段階の子が多い。 〈目指す子ども〉 ①国語・算数のワークテストで全国平均を上回る子を65%以上にする。 ②「自分の考えを相手に伝えることができる」の児童アンケート、教師の見取りをともに80%以上にする。</p>	<p>①校内研修のテーマ「学び合いを通して、分かった・できたと実感できる子どもの育成」を中核に、授業研究を通して職員研修を深め、授業改善を進める。</p> <p>②学習指導改善調査の結果を分析・共通理解し、特に落ち込んでいる分野、領域、単元について、「研修の手引き」等を参考に、補充指導を行う。</p>

19	佐渡	佐渡市立	真野小	県小教研HPに公開	11月	(本間 智英 教務主任)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の追試 ・配信データを下回る部分の抽出と、その改善 方法の検討, 実践 	<p>1 児童の実態分析</p> <p>(1)平成26年度 NRT全国学力テスト偏差値平均 (H27年1月実施) から佐渡市の目標値である53を達成することができた。また、4領域全ての全校平均が100を上回った。</p> <p>(2)全国学力・学習状況調査結果から A問題、B問題とも県平均正答率を上回った。しかし、記述式の問題は正答率が低かった。絵や図、言葉、式を使って説明する力を高める指導を行う必要がある。</p> <p>(3)学習指導改善調査から文章題の場면을把握し、言葉と図と式を結び付ける問題や、算数用語などを使って説明する問題において正答率が低かった。</p> <p>2 目指す子ども理由や根拠を明らかにして筋道を立てて考えたり、絵や図、言葉、式を関連付けながら表現したりする子ども</p>	<p>1 日々の授業で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「たい」を引き出す場面を設定する。 ・毎時間、子ども一人一人が表現する場を設定する。 <p>(問題の解き方を言葉や図などを使ってノートに記述、子どもが互いに考え方を説明する、友達の考え方を予想して説明するなど)</p> <p>2 授業公開で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教諭が一人1回、算数科の授業を公開する。「考えてみたい」「表現したい」というような能動的な活動意欲・学習意欲を引き出す算数授業を構想する。 ・低、中、高学年部を母体に研修する。 																
20	胎内	胎内市立	中条小	県小教研HPに公開	H28.4	神田 章	<p>○授業改善プランの作成に活用する。</p> <p>テスト問題や配信データを分析し、誤答・無答のある問題の傾向をとらえる。その傾向から、重点単元を設定し、活用する力を培う授業を構想する。</p> <p>重点単元における教師の手立てを構想する際、「学習指導改善の手引き」や「指導案」を参考にする。</p>	<p><今年度の児童の実態分析></p> <p>テストの結果は、どの学年においても、おおむね県の平均を上回っている。無答率よりも誤答率の値が大きくなっていることから、子どもは、問題解決に向かう働き掛けをしていることは分かるが、正しい問題解決に向かうことができていることが分かる。そのため、問題文を正しく把握し、問題解決に必要な情報を選択し、活用して問題を解決する能力が、中条小学校の児童には必要であるととらえる。</p> <p><目指す子ども像></p> <p>学んだことや友達の考えなど、課題を解決するために必要な情報を関係付けて、他者と協同しより良い考えを創っていく子ども</p>	<p>(1)授業改善プラン</p> <p>テストの結果や結果分析を受けて、授業改善プランを作成する際の材料にする。</p> <p>4・5・6年については、配信データをもとにして、2学期以降の学習内容の中から重点単元を決め、授業改善プランを作成する。また、1・2・3年については、4・5・6年の配信データを参考にして、当該学年で習得すべき学習内容を分析する。そして、その分析結果から重点単元を設定し、4・5・6年生と同様、授業改善プランを作成する。</p> <p>(2)学年研究推進計画</p> <p>授業改善プランに基づき、学年間で授業公開を行う。授業改善を図る教師の手だてについて子どもの姿で見取り、授業者・参観者が評価する。そして、授業後、成果と課題を分析し、次学期や次年度に生かす。</p> <p>(3)つばさっ子テスト (自作テスト)</p> <p>上記の重点単元についての自作テストを作成し、学習内容の習得・達成状況を確認し、個別指導に生かす。</p> <p>(4)学習指導改善調査過去問の取組</p> <p>学習指導改善調査の過去問を用いて、7月の結果との比較を行い、(1)～(3)の授業改善にかかわる取組の成果を検証する。</p>																
21	東蒲	阿賀町立	津川小	県小教研HPに公開	23月	水藻 正美	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で採点をし、児童の実態把握と今後の取り組みを共通理解する。 ・県の正答率を参考に、今後の対策を話し合う。 ・学習指導改善の手引きや指導案を回覧し、授業改善に生かす。 	<p>【昨年度の結果や、今年度の児童の実態分析と目指す子ども】</p> <p>昨年度2月に実施したNRTにおいては、6学年中5学年が国語・算数ともに全国平均を上回った。しかし、学習指導改善調査に関しては、下の表のように県平均を大きく下回っており、記述式問題に対応するだけの読解力・表現力が十分育っていない実態が見られる。特に、算数科では、3学年とも県平均を下回っていた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>自校国語 (県平均)</th> <th>自校算数 (県平均)</th> <th>自校理科 (県平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4年</td> <td>69.5 (64.5)</td> <td>56.4 (60.8)</td> <td>73.3 (72.9)</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>60.0 (67.9)</td> <td>44.1 (52.8)</td> <td>46.6 (46.6)</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>58.6 (71.7)</td> <td>51.3 (58.5)</td> <td>58.0 (63.3)</td> </tr> </tbody> </table> <p>こうした実態を受け、今年度は、どの各教科においても言語活動を充実させながら、各教科で使われる重要語句をしっかりと教え、文章の中で使いこなせるように指導する。</p> <p>【目指す子ども】</p> <p>①算数の単元テストで、学期末平均が8割以上の子どもを70%にする。</p> <p>②毎日「10分×学年」の家庭学習をする児童を80%にする。</p>	学年	自校国語 (県平均)	自校算数 (県平均)	自校理科 (県平均)	4年	69.5 (64.5)	56.4 (60.8)	73.3 (72.9)	5年	60.0 (67.9)	44.1 (52.8)	46.6 (46.6)	6年	58.6 (71.7)	51.3 (58.5)	58.0 (63.3)	<p>研究教科を算数とし、一人一授業を行いながら指導を充実させていく。</p> <p>研究主題：「学びあいを通して考えを深める子どもの育成」</p> <p>～思考を促す課題を設定し、考えの交流を大切に算数科の授業を目指して～</p> <p>○研究内容</p> <p>①教えることと考えさせることを明確にした単元や授業の構成</p> <p>②思考を促す課題の設定</p> <p>③学びを深める話し合いの組織</p> <p>○研究仮説</p> <p>「考えることと教えることを明確にした単元や授業の構成をし、思考を促す課題の設定と考えの交流を大切に話し合いを組織すれば、考えを深める子どもになるだろう。」</p> <p>別紙参照</p>
学年	自校国語 (県平均)	自校算数 (県平均)	自校理科 (県平均)																						
4年	69.5 (64.5)	56.4 (60.8)	73.3 (72.9)																						
5年	60.0 (67.9)	44.1 (52.8)	46.6 (46.6)																						
6年	58.6 (71.7)	51.3 (58.5)	58.0 (63.3)																						

22	東蒲	阿賀町立	三郷小	自校のHPに公開	9月	江川 理香	<ul style="list-style-type: none"> ・自校での結果分析の際、比較折れ線グラフと比較しながら、児童の実態を把握する。 ・結果分析を参照し、分析の視点を明確にする。 ・学習指導改善の手引きを参考にし、改善の方策を立てる。 ・指導案を参考にし、自校の児童の実態に合わせてアレンジしながら、授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークテストでは、80点以上取れる児童が86%であった。基礎・基本的な問題に対し、確実に解答できるようになってきている。しかし、一方で、発展的な問題については、解答に時間がかかったり、無答のままであったりする傾向も見られる。発展的な問題に対し、根気強く解決していく力や順序立てて解く力を付けられるように、授業中にも発展的問題を提示したり、家庭学習の課題に出したりしていく。 ・家庭学習の定着は、平日は約95%に増え、休日も78%まで増えてきたが、休日の学習習慣の定着に課題が残る。週末に課題を出し、週明けに評価テストを行うシステムを徹底し、児童に休日にも学習を行う必要感をもたせる。また、休日前に、休日中の家庭学習計画を立てさせるように徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究方法 ・算数科を研究教科として、実践研究に取り組む。 ・全学級が授業公開をし、授業研究を通して具体的な子ども姿から「学習意欲の向上・主体的な学び・協同学習」のあり方の指導や成果などを協議する。 ○ 家庭学習の習慣化 ・全学年で学習カード(目標:10分×学年)を使用し、子どもがめあてをもって家庭学習に取り組めるようにする。<家庭学習カードの蓄積> ・日曜日は、「自学の日」として意識づけ(便り、時間割表に明記する)、自主学習を奨励していく。自学は、やり方を指導し、計画を自分で立てさせる。 ・中学校区の「家庭学習強調週間」と連動させ(今年度は3回)、強調週間には「10分×学年+10分」をめあてにした家庭学習に取り組みさせる。 ・個の児童の実態に応じた家庭学習の指導を行う。家庭学習強調週間だけでなく、日頃の学習状況を保護者に知らせ、家庭と連携した取組をする。 ・週末課題→週明けテストなど、休日の家庭学習を促し、学校での学びが家庭での学習につながるような手だてや働き掛けを模索していく。
23	東蒲	阿賀町立	上条小	県小教研HPに公開		中山 智美	<ul style="list-style-type: none"> ・データ校の結果と自校の結果を比較し、差異の大きな問題を抽出し、分析を行う。その後分析結果を全職員で共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをペアやグループの友達に伝えることには意欲的に取り組む児童は多い。しかし、全体発表の場になると、抵抗感を感じる児童も多い。自力解決の場では、式を立て、答えを導き出すことはできているにもかかわらず、その手順を追って説明したり、式を補足しながら説明することに苦手意識をもっている。よって、このことから当校では、算数科において「自分の思いや考えをもち、分かりやすく表現する児童」を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で丸つけを行う。 ・学級担任が誤答の多い問題を分析し、考えられる原因を考察する。 ・全職員で誤答の多い問題と考えられる原因の共通理解を図り、その単元に入る前に、授業を通じた改善策について検討する。
24	東蒲	阿賀町立	西川小	自校のHPに公開	10月	山口 礼子	<ul style="list-style-type: none"> ・小問分析後、各学年・教科の児童の課題を1～2に整理し、指導改善のポイントを明確にする。 ・授業改善については、過去の「校内研修の手引き」「指導案」等を参考に、明確化したポイントの改善を図る。 ・週1回の放課後補充学習において、「テキストの読み解き」と「記述表現」の学習を全校体制で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> <課題となる能力> (国語) 資料を根拠として意見を記述する力 (算数) テキスト(問題文・資料)を正しく読解したり、論理的に記述する力 (理科) 実感を伴った概念の理解と、正しい理科用語の使用と論理的に記述する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を進めるために、「校内研修の手引き」等のアイデアを活用して、授業者の指導の幅を広げる。 ・テキストの読解力、論理的な表現力をつけるために、放課後補充学習の内容を全校体制で整理して実施する。 ・基礎基本の定着を図るために、家庭学習週間の定着を保護者とともに推進する。